

OKoTaC 通信

オコタック

2013年12月10日発行

NO.14



P 2 NPO活動報告(1)

ヒューライツ大阪・おおさか子ども多文化センター共催セミナー

第3回 『外国につながる子どもたちのキャリア形成を考える～夢や目標に向けて』

P 3 NPO活動報告(2)

『いろいろな国のことばで 絵本を楽しむワークショップ』

P 4 多文化な子ども@大阪のニュース

『吹田市 外国人ママ・パパのための「いっしょに子育て」 こあらくらぶ』

『こんなところにも外国語が！～いつもと違う視点で まちを再発見してみよう～』

P 5 地域の子ども支援教室から⑭

『多文化子ども交流事業』 (高槻市)

P 6 Air Mail メキシコ便り⑬

『アルゼンチン』

P 7 ころちゃんお役立ち情報(5)

『学校文書作成に役立つ教材』 『多言語翻訳教材、その他資料』

P 8 イベント情報



おおさか子ども多文化センター 活動報告(1)

ヒューライツ大阪・おおさか子ども多文化センター 共催セミナー〔3回シリーズ〕

第3回「外国につながる子どもたちのキャリア形成を考える～夢や目標に向けて」

10月26日(土)、ヒューライツ大阪とおおさか子ども多文化センター共催による「貧困と教育」セミナーシリーズ3回目として NPO 法人愛伝舎理事長・坂本久海子さんにお話を伺いました。

愛伝舎は三重県鈴鹿市を中心にラテンアメリカ出身者をはじめとして定住外国人の生活支援や、子どもの教育・進路支援を行っています。その活動内容は、生活適応セミナーや日本語・ポルトガル語の語学教室開催、介護ヘルパー養成研修、「夢の架け橋」奨学金設立など多岐に渡ります。



愛伝舎の創設が2005年であることを考えると、その活動範囲の広がりには目をみはるものがあります。

そんな愛伝舎の坂本さんは、渡日した子どもたちを取り巻く困難な状況のなかで、進学や就職の目標を立てる際に、具体的な可能性を子どもや保護者に提示し、彼らのキャリア形成を図っていくという取り組みについて報告されましたが、そのエネルギーとバイタリティーのすごさはお話の中で十分に感じ取ることができました。そんな活躍ぶりが認められて平成21年度経済産業省による「ソーシャルビジネス55選」受賞にもつながったのではないのでしょうか。坂本さんと同じフィールドで活動している者からみれば、どれも取り入れてみたい素晴らしい活動ばかりでした。そんなお話を伺う中で私が特記したい3点について述べます。

まず坂本さんが活動されるときの姿勢です。支援対象者の立場になり行動されている様子が言葉の端々からよくわかりました。安定した仕事確保のための介護ヘルパー養成講座を主催されているのですが、施設からヘルパーの紹介を依頼されても低賃金であれば断ったり、「外国人でもいいので雇いたい」という言葉に怒りを表されたりと、私もそんなスタンスを日頃からとりたいてと考えており、同じ思いをされていることに共感しました。

2点目は、外国人の支援が「困っている外国人を助ける」ではなく将来の日本社会の後継者であり、納税者であり、年金を支える人を育てているという、きわめて意義があることだと、三重県の人口のこれまでの20年とこれからの20年という具体的な数字を示しながら、坂本さんが出会った人々に話し、理解を深めているということです。これは私たち大阪についても同じことが言えると思いますが、私たちの活動はしばしば「日本人の支援ではなく、なぜ外国人か」という疑問を聞かされることがよくあります。その際は坂本さんが示されたように、統計を用意すれば説得力のあるものになるのではないかと思います。

3点目は、2008年に「三重県多文化共生を考える議員の会」を発足されたことです。私たちにはとかく政治に接近する際には政党に引き回されるのではないかと、結局票の獲得のために利用されるのではないかと、などの危惧があり、政治に近づくことには躊躇せざるをえません。しかし坂本さんは目標を実現するために積極的な政策提言という形で活動され、行政施策を実現されてきました。これは学ぶべきことだと思います。そんな坂本さんの周りには支援担当者、政界や行政関係者、会社経営者が多く集まります。それはやはり坂本さんの人間的魅力のなせる技ではないかと、お話を聞きながら考えていました。



また、このあと、豊中の夜間中学で日本語指導をされている金月由紀子さんが、介護施設への就労支援などについての大阪での取り組みについて報告されました。

(Y・H)



おおさか子ども多文化センター 活動報告（2）

いろいろな国のことばで 絵本を楽しむワークショップ

（大阪市NPO・市民活動企画助成事業）

11月30日（土）、大阪市立総合生涯学習センターにて、「いろいろな国のことばで絵本を楽しむワークショップ」を開催しました。7月に、東京・目黒区で多言語によるおはなし会をされている石原弘子さんをお招きし、外国語での読み聞かせのノウハウやその楽しみ方についての講座を開きましたが、今回はその第2弾として、実際に自分たちでも多言語読み聞かせを体験してみよう！という趣旨でおこなわれたものです。当日は、外国から来た人と日本人が約半数ずつ、計30名の参加がありました。

まず前半は、シンハラ語、中国語、韓国語、ポルトガル語、日本語を母語とする5人のゲストに、1冊ずつ絵本をよんでもらいました。それぞれ動物が主人公のカラフルな絵本や、ゲスト自身も子どもの頃から親しんできたという有名な昔話、また儒教の教えをベースにしたものなどバラエティに富んだ各国のお話を母語で披露したあと、日本語であらすじを説明します。普段聞きなれない言語もありましたが、読み手の方々の感情豊かな楽しい、また迫力ある朗読に絵を見てストーリーを想像しながら、みんな心地よく外国語の音の響きを堪能しました。

読み聞かせの後のゲストと参加者とのトークでは、お話の中身を越えたさまざまな質問や話題が飛び出しました。たとえば絵本の挿絵のタッチが各々特徴的だったり、物語の最後に必ずしつけのための「教訓」の一文がついている国の絵本があったりしたことで、各国の絵本文化の相違が感じられました。また、それぞれの母国の学校現場における読み聞かせの位置づけや、近年の教育改革の中で絵本が果たす役割についてなど、とても興味深いお話を聞くことができ、絵本を入口にその国の文化や社会背景の一端に触れることができる、貴重な機会となりました。



後半は、4人ずつのグループに分かれて、全員が各々1冊ずつ持参した絵本を、それぞれの母語で読み合いました。ほとんど全員が初対面で、また出身国もさまざまでしたが、お気に入りの絵本をはさんで紹介し合ううちに、あっという間に打ち解け合い、和気あいあいと交流が始まりました。参加者の中には親子連れで来ていた方も何組かおられ、ママがポルトガル語やベトナム語で読み聞かせる絵本を日本人の親子と一緒にのぞきこみ、笑顔で拍手を送っている子どもの姿もみられました。また、ひとり通り絵本を読み合った後も、各国のオノマトペ

の比較で盛り上がるグループや、今後も絵本を使った多文化理解活動をしてみたいと話合うグループ、ブラジル出身のお母さんから渡日後子どもの教育で悩んだ話などを熱心に聞く教員志望の学生さんや元・保育士さんのいるグループなど、みなさん時間いっぱいまで、それぞれに交流されていました。

おおさか子ども多文化センターは、外国にルーツを持つ子どもたち一人ひとりが、自らの母語・継承語を大切に思い、自らのルーツの文化に自信と誇りを持てる社会を望んでいます。そのための活動の一つとして、このような多言語による絵本の読み聞かせは、外国にルーツのある子どもや保護者にとって母語・母文化の発信の機会になること、また絵本という親しみやすいツールを用いるからこそ、日本人、特に子どもたちにとって、他言語・異文化に対する関心と共感が広がる可能性を持つものであることを、あらためて感じました。終了後のアンケートでは「絵本がきっかけで、その後ろにある文化やお国事情まで知ることができた」「子どもと一緒に楽しめたのがよかった」という声が多く聞かれました。また「このような、外国ルーツの子どもたちが母語で読み聞かせをしてもらえる機会が、定期的にあればいいと思った」という意見や、地域の学校で図書活動をされている参加者からは「今回聞いた外国のお話などを、また活動の中で紹介してみたい」という声もありました。私たちも、多文化な子ども×絵本×地域社会を結ぶ次のステップを、一歩ずつ考えていきたいと思っています。（A. N）





『吹田市 外国人ママ・パパのための「いっしょに子育て」こあらくらぶ』

(吹田市国際交流協会)

吹田市国際交流協会では今年6月より、外国人ママ・パパのための仲間づくり事業として「こあらくらぶ」という子育て広場を開催しています。外国人親子が気軽に集い参加できる子育て広場を継続的に開催し、外国人ママ・パパ同士やボランティアと交流することで、日本での子育ての不安を和らげるのが主な目的です。この事業では多文化子育てサポート



初めての外遊び。落ち葉を拾ったり、阪急電車を眺めたり
…中国出身のママも笑顔♪

トに登録しているボランティアに活動して頂いていますが、ボランティア自身も子育て中のママが中心で、子育ての悩みや喜びに共感することも多々あるようです。

「こあらくらぶ」では、ママ同士のおしゃべりや、日本で馴染みのある手遊びや絵本などで楽しんでいます。七夕やお月見などその季節折々の行事を紹介することもあります。参加者の外国人ママたちは、繰り返し参加することで徐々に打ち解けあい、身近な話題や家族・子どもの話ができるようになり笑顔も増えました。初めて会った頃はまだ“ハイハイ”の時期だったお子さんが今では“よちよち歩き”を始めたりして嬉しい驚きもありました。子どもたち

のお誕生日にはバースデーカードと歌を用意し、みんなでお祝いしています。「子どもたちの成長の喜びを一緒に祝える仲間が出来たことがとても嬉しい」と参加者の一人は話してくれました。

母国とは異なる風習の中での子育ては、悩みや疑問が多々あるでしょうが、一人で抱え込まずに仲間がいることを知って頂きたいです。外国人親子の心地よい居場所となり、交流の輪が継続的に深まることを望んでいます。

(吹田市国際交流協会 東畠志津子)



『こんなところにも外国語が！』

～いつもと違う視点で まちを再発見してみよう～ (箕面市国際交流協会)

箕面市国際交流協会では、子どもたちに地域にいながらグローバルな体験をしてもらおうと、様々な子ども向けプログラムを実施しています。

10月12日(土)には、「がいこくごをさがせ！」と題したまち探検のイベントを行いました。協会でインターンをしている日本人大学生とウクライナ出身の留学生のチームが企画。いつも通っている身近な場所を違った視点で見つめることで、身近にある異文化を発見しよう！というのが目的です。

参加した14名の小学生たちは3チームに分かれ、1時間ほどまちを搜索。外国語を見つけたらデジカメで撮っていきます。道端に落ちていたブーツの裏や、歩いていた消防団のおっちゃんの服にも外国語を発見するなど、子どもの視点はなかなか新鮮です。その後、集合してインターンが用意したまちの立体地図のなかに、それぞれ一番気に入った写真を貼りました。



限られた時間だったので今回はここまで。今後は、自分でことばの意味を調べて「この看板の意味、知ってんで！」と友だちに自慢したり、英語以外の言語を探す競争をしたり、成果をまとめてクイズ大会やオリエンテーリングを子どもたちが主催したり…と、いろいろアイデアは広がりますが、まだまだ試行錯誤をはじめたばかり。「こんなんどうや！」という面白いアイデアがあれば、ぜひ教えてください！

(箕面市国際交流協会 河合大輔)





『多文化子ども交流事業』（大阪府高槻市）

高槻市では、外国にルーツを持つ小学生、中学生を対象として『多文化子ども交流事業』を実施しています。

この事業のはじまりは 1985 年に始まった「在日韓国・朝鮮人教育事業」でした。これを引き継ぐ形で実施された「多文化共生・国際理解教育事業」のうちの一つである「地域子ども会」が、現在の「多文化子ども交流事業」となりました。今では、中国やフィリピンにルーツを持つ子どもたちの参加が多くなりました。

具体的な活動内容は、平日の放課後や土曜日の日中に、学校の宿題や教科の補充学習、日本語学習などの学習支援と、遊びを通じての仲間作り、居場所作りをしています。市内2カ所で開催しており、1カ所は阪急高槻市駅から徒歩約10分の市民会館南側小会議室、もう1カ所は柱本小学校の教室を借りています。

本事業の特徴は、日本生まれや日本育ちの子どもの参加が多いということです。日常会話は問題なく出来ても、算数の文章題や、作文の課題となると、ひとりでするのは難しいということがよくあり、高校進学に向けて教科学習の支援が必要な場合もあります。また、さまざまな背景から不登校になってしまう場合もあり、ときには、勉強に気持ちが向かず、おしゃべりが中心になってしまうこともあります。そのような参加者にとっても、少しでも心が開けて、安心できる場所であってほしいという思いで活動しています。

そして、人数は多くはありませんが、初歩からの日本語学習が必要な新規参加者もほぼ毎年やってきます。それぞれに異なるニーズに合わせた個別の対応が求められますが、出来る範囲で対応をしているという現状です。

スタッフは、市職員1名とアルバイト1名、ボランティア数名です。アルバイトやボランティアにはこの事業の卒業生の大学生等が参加しています。この事業を大切に思い、後輩の指導にあたってくれる人材が育っていることをとてもうれしく思います。子どもたちにとっては、年齢も近く身近な先輩がいることで、悩みごとも含めていろいろな話も出来るようで、みんな、先輩に会うのを楽しみにしています。



2013年度は、新たな取り組みとして「ハロハロくらぶ」というイベントを月に1回開催して、参加者のルーツの国の遊びをしたり、言葉にふれたりする活動を行っています。

高槻市は「少数点在」型の地域のため、学校の枠を超えて外国にルーツを持つ子どもたちが集うことの出来る本事業の意義は大きいので、今後もより充実した活動が出来るようがんばっていききたいと思います。

(多文化子ども交流事業 石田みどり)

会 場 : 市民会館南側小会議室(月、金、土)、柱本小学校(水)

問合せ先 : 高槻市教育委員会 教育管理課 地域教育青少年課 富田青少年交流センター
多文化共生・国際理解教育事業(担当: 鄭^{ちよん})

TEL 072-694-5454

※ 開催日時、場所の詳細は高槻市ホームページをご覧ください。

ボランティア(ハロハロサポーター)募集の情報も掲載しています。

<http://www.city.takatsuki.osaka.jp/kakuka/kyoikukanribu/tiikikyo/gyomuannai/tabunka/index.html>



海外からのたよりをお届けします～

メキシコ便り⑬ 「アルゼンチン・ブエノスアイレス」

(おおさかこども多文化センター会員・金野広美)

7月7日、夜11時5分、飛行機は真夏のメキシコシティを飛び立ち、アルゼンチンの首都ブエノスアイレスに8日昼の1時過ぎに着きました、こちら南半球は真冬、相当の寒さを覚悟していましたが、日差しは明るく、とても気持ちのいい秋のような風がブエノスの街を吹き抜けていました。

ここブエノスはカジェと呼ばれる通りやアベニダと呼ばれる大きな通りが碁盤の目のように張り巡らされ、どのような小さな通りにも名前があり、とても歩きやすいところです。にぎやかな大通りをポルターニョ(ポルトは港のことでブエノスアイレスの港っこの意味)と呼ばれる人たちがさっそうと歩いています。眠らない街、ブエノスアイレスは一晚中タンゲリアと呼ばれるタンゴのライブが聴けるレストラン、バーが立ち並び、カルネ・アサードという骨付き肉のステーキや、エンパナーダスという肉入りパイが安く食べられるレストランがたくさんあります。土曜日の夜などは、映画館通りの別名があるラバージュ通りでは十数軒の映画館が一晚中映画を上映し、家族連れでにぎわいます。



このように楽しく遊ぶのには事欠かないブエノスですが、私の最大の目的はタンゴを見ることと、習うこと。ここではタンゴショーを見せて、かつ踊りのレッスン、食事、送迎付き、などという店もあると聞き、いろいろ歩いて探してみることにしました。ところがこんなに込み込みは結構高いのです。特に食事つきだと値段がはねあがります。豪華な食事はいらないし、見ると習うはやはり別々の方がいいかも、と思いつつ歩いていると、倉庫のような場所の入り口にレッスンの張り紙を見つけました。グループレッスンが1時間10ペソ(約330円)とあります。これは安い。日本だと最低でも2500円はします。さっそく中に入るとひとりの小柄なおじいちゃんが、奥の方にちょこんと座っていました。実はこの方アルマンディートさん、81歳が先生でした。私がタンゴを習いたいと言うと、個人レッスンから始めましょうということで、1時間50ペソ(約1650円)だと言われました。これもまた安い。途中疲れたでしょうと何度もお茶をすすめてくれ、結局1時間半レッスンを受けました。その日はわけがわからないまま、基礎の足裁きを習いました。次の日はさらなる足裁きと、女性は常に男性の動きを待たなければならない、ということは何度もいわれました。そして腕を組んだ瞬間、男性の腕から女性の腕、そして身体、足へとエモション(情熱)が流れていくのだと教えられました。うーん、なるほど、これがあの疼きをともなった、とろけるようなタンゴの真髄なのかと、ひとり感心してしまいました。

アルマンディートさんはお年を召したおじいちゃん先生にもかかわらず、腕には筋肉がしっかりとつき、背筋をピンと伸ばし、私の重たいからだを支えて踊られるのにはびっくりしました。そして、そのあとのグループレッスンも受けたのですが、そこでのモニカ先生との踊りはセクシャルで、とても81歳には見えない若々しさでした。本当はここで沈没して、ずっとタンゴを習っていたかったのですが、イグアスの滝もどうしても見たかったので、後ろ髪を引かれる思いで、次の日、3度目のレッスンを受けてから夜行バスで18時間のプエルトイグアスに向かうことにしました。先生は、こんどはいつブエノスに帰ってくるのかと、抱擁とキスで別れを惜しんでくださいました。写真を撮らせて欲しいというと、白いマフラーと黒の帽子をとりだし、ポーズを決められました。その姿は本当にかっこよく、まさに伊達男でした。





ころちゃんお役立ち情報 (5)

2. 学校文書作成に役立つ教材 (12号の続き)

	機関名／教材名／URL	内容／対応言語
5	文部科学省「かすたねっと」 http://www.casta-net.jp	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多言語の予定表や翻訳された通知文書や教材を検索できる。 ○ 中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、タイ語、フィリピン語、英語
6	文部科学省「CLARINET」 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003.htm	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多言語で外国人児童生徒受け入れの手引き、就学ガイドが検索できる。 ○ 中国語、英語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、フィリピン語
7	多言語学校プロジェクト http://www.tagengo-gakko.jp/	<ul style="list-style-type: none"> ○ 月間予定表作成ツール、学校用語、高校家庭科、保健体育の用語、学校からのお知らせ短文などが多言語で検索できます。 ○ 中国語、英語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、フィリピン語

3. 多言語翻訳教材、その他資料

	機関名／教材名／URL	内容／対応言語
1	文部科学省 学校教育におけるJSLカリキュラム(中学校編) 「中学校理科・社会・数学用語対訳一覧」 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/011.htm	<ul style="list-style-type: none"> ○ 科目の分野領域ごとに語彙の対訳一覧を掲載。 ○ 中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、フィリピン語、英語
2	(公財)兵庫県国際交流協会 「外国人児童のための翻訳教材」 http://www.hyogo-ip.or.jp/children/	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校の漢字熟語集、算数・理科・生活科・社会科の用語カード。 ○ 中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、フィリピン語、英語
3	埼玉県教育委員会 「彩と武蔵の学習帳(改訂版)」 http://www.pref.saitama.lg.jp/page/ayatomusashinogakushuuchou.html	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本語を学びながら教科学習の深化に役立つ。 ○ 中国語、スペイン語、ポルトガル語、英語
4	東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター 「外国につながる子どもたちのための教材」 http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/social_02.html	<ul style="list-style-type: none"> ○ 算数(足し算、引き算、かけ算、わり算、分数)用語集、漢字学習。母国での計算方法など指導ポイント解説つき。 ○ スペイン語、ポルトガル語、フィリピン語、ベトナム語
5	川崎市総合教育センター http://www.keins.city.kawasaki.jp/content/taiyaku/taiyaku.htm	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校算数の「数と計算」の対訳教材。 ○ 中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語、フィリピン語、英語



イベント情報

▼ 学習会案内 (おおさかこども多文化センター主催)

『外国にルーツをもつ子どもの学習上のつまずきと支援のありかた Part2』(仮題)

去る12月7日に、支援教育の観点から外国にルーツのある生徒にも関わられた梅花女子大学の伊丹昌一さんの講演とワークショップを行いました。今回は、それに引き続く企画です。

さまざまな生活環境、文化環境、言語環境にある外国にルーツをもつ子どもが、学校現場でいろいろな困難に直面しています。例えば、日本語や学校生活、学習への適応で困っている場合に、どのように支援すべきか戸惑うことは日々の中で多いですが、このような状況を受け、悩みをもつ教育関係者・支援者を対象に、事例の共有、グループワークを通じて、子どもの背景理解やよりよい支援方法のあり方を考える機会とします。

【日 時】 2014 年 2 月 23 日 (日) 13:30～16:00

【場 所】 大阪市立総合生涯学習センター 6階 第2研修室 (大阪市北区梅田1-2-2-500)

地下鉄「梅田・東梅田・西梅田」駅、阪急・阪神「梅田」駅、JR「大阪」「北新地」駅

【講 師】 近田 由紀子さん (大阪大学大学院連合小児発達学研究所)

【対 象】 外国にルーツをもつ子どもの教育支援に関わる教育関係者・支援者

【定 員】 60名

【会 費】 資料代500円(会員は200円)

参加申し込み方法については決定次第、ホームページ等でお知らせします。

▼ 『第12回 Wai Wai! トーク Part2』 (大阪府立学校在日外国人教育研究会主催)

府立高校に在籍する外国にルーツを持つ1年生の母語によるスピーチ大会。

日 時 : 2014 年 1 月 18 日 (土) 13:30～16:30

会 場 : 府立住吉高等学校 (大阪市阿倍野区北畠2丁目4-1)

阪堺上町線「北畠」より西へ200m

見学希望者は事前に府立外教(Mail: furitsugaikyo@nifty.com)に申し込んでください。

NPO 法人 おおさかこども多文化センター

代表 村上 自子

〒550-0005 大阪市西区西本町 1-7-7 CE 西本町ビル 8 階

Tel/Fax 06-6586-9477

E-mail osakakodomo@gmail.com

URL <http://okotac.org>

郵便振替 【記号・番号】00940-1-272824

(他金融機関からは【店名】〇九九(ぜいけい))

【店番】099【預金種目】当座【口座番号】0272824

口座名義『NPO法人 おおさかこども多文化センター』

(〇カガ: トクヒ) オオサカコドモタフンカセンター

